

九州正教会だより 第67号



(福岡・熊本・人吉・鹿児島)

2025年4月1日発行

発行人：司祭グリゴリイ水野 宏

〒811-2232 福岡県糟屋郡志免町別府西 2-7-1

TEL / FAX 092-410-0540

mail ocj.kyushu@gmail.com

ウェブサイト <https://www.ocj-kyushu.com/>



光照に備ふる者

司祭グリゴリイ 水野 宏

正教会では今年、4月20日に復活大祭を迎えます。その前の大齋期間には先備聖体礼儀という祈禱が行われています。

本来、聖体礼儀とはパンと葡萄酒を神に捧げ、これが聖霊の働きによってキリストの体と血に変化し(聖変化)、それをいただくための典礼です。しかし教会規則上、大齋期間のウィークデーに聖変化をともなう聖体礼儀を行うことはできません。そこで直近の主日聖体礼儀で聖変化した聖体を「先備聖体」として保管しておき、水曜日と金曜日にいただくための典礼が制定されています。これが先備聖体礼儀です。

先備聖体礼儀にしかない特別な祈禱として「光照に備ふる者」、つまり洗礼予定者のための連禱があります。これは古来、復活大祭の時に洗礼を受けることが教会の伝統であり、洗礼予定者にとって大齋は洗礼のための準備期間だったことによります(日本正教会では、復活大祭当日の洗礼式は実施困難なことが多いため、一週間前の聖枝祭での洗礼が通例です)。

また先備聖体礼儀の中で、旧約聖書の「箴言」の朗読の前に司祭がロウソクの灯をかざし、「ハリストスの光は衆人を照らす」と言って会衆を祝福します(写真)。これも「キリストの救いの光は(まだ信者でないあなたも含めて)皆さんに向けられています」という意味であり、本来は洗礼予定者に向けられた言葉です。

これらのことから分かるように、私たち信者にとって大齋は復活大祭に向けての自身の準備期間であると同時に、「この教会で新しい兄弟姉妹が無事に洗礼を迎えられますように」と祈る期間でもあるのです。わが九州管区も小さな牧群ながら、何人もの方たちが今度の聖枝祭や復活大祭で洗礼を受けることになりました。彼らが善き信仰の道を歩めるよう、そして今後も九州で多くの人々が教会に導かれるように祈りましょう。